

The MIDORI Prize for Biodiversity 2012

受賞者フォーラム

現在、地球規模の取り組みが必要とされている環境課題として、地球温暖化防止と生物多様性の保全がクローズアップされています。こうした課題への取り組みとして、公益財団法人イオン環境財団は、2010年に生物多様性第10回締約国会議（COP10）が名古屋において開催されたことを契機に、同年「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設いたしました。

The MIDORI Prizeは、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し、世界、地域レベルで顕著に貢献している個人を顕彰するものです。第2回目にあたる本年は生物多様性条約事務局との共催で本賞を実施することができました。本賞が、生物多様性に関する様々な取り組みと共鳴し、生物多様性に関する認識のさらなる向上や、活動の進展の一助となりましたら誠に幸いです。

公益財団法人イオン環境財団
理事長 岡田 卓也

講演者の紹介



チリ カトリカ大学生態学部教授

フアン・カルロス・カスティーリャ博士 (チリ)

Dr. Juan Carlos Castilla (Chile)

南米における海洋生態学のパイオニア。生物多様性の保全と持続可能な利用を促す国の政策に関わり、政府と沿岸・漁業コミュニティの連携による小規模海洋保護区の共同管理が、コミュニティの持続的な発展、グリーンエコノミーの形成に貢献可能であることを示した。



コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表

ロドリゴ・ガメス=ロボ博士 (コスタリカ)

Dr. Rodrigo Gamez-Lobo (Costa Rica)

メガダイバーシティの国 コスタリカにおいてインビオを設立、主導。インベントリー作成、環境教育、生物資源調査、政策・法規制、土地利用管理・技術支援、能力開発、エコツーリズム等、様々な活動分野で生物多様性の保全と持続可能な利用の成功例を世界に示した。



ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長

ボ・クイ博士 (ベトナム)

Dr. Vo Quy (Viet Nam)

ベトナム戦争で疲弊した国土を再び緑化するため、住民主体の環境活動を推進し、国家環境戦略に大きく寄与したことから「ベトナム環境保護の父」と呼ばれている。環境保全・修復の模範を示し、人為的に破壊された自然の再生が可能であるという美しい希望を与えた。

モデレーター



東京都市大学環境情報学部教授

涌井史郎

造園家、ランドスケープアーキテクトとして「景観十年、風景百年、風土千年」を唱え、人と自然の空間的共存を目指した数多くの作品や計画に携わっている。The MIDORI Prize for Biodiversity実行委員・審査委員、国連生物多様性の10年 日本委員会委員長代理を務める。